



大分市立
鴛野小学校
学校だより

鴛野小通信

令和2年
11月13日(金)
NO. 27
発行者: 板井勝博



読書の秋特集

昨日11月12日、「図書館祭り」が行われました。例年であれば図書館を開放して大々的に行われるのですが、今年は新型コロナウイルス感染防止のため放送で実施しました。

放送の中で、各学年の貸し出し者ベスト3、図書委員さんのおすすめの本の紹介、図書委員会から図書館クイズ、読書月間のお知らせなどが発表、連絡されました。

暑い中、汗をふきふき本を読むのもよいですがカラッと爽やかな天候のもとで本のページをめくるのもよいものですよ。鴛野小学校の皆さん、どうぞ、たくさん本を読んでください。



ただし、語彙（言葉の数）は目に見えては増えていきません。語彙とは本を読んだらすぐに増えるようなものではないのです。それは、薄い紙を一枚一枚積み重ねていくように、まるで奥深い海の底に少しずつ少しずつ小さな粒子が人知れず積み重なって地層となり、大地を作り上げるように蓄えられていくのです。そして、そんな豊かな語彙を駆使して、人は物事を広く深く考えることができるようになるのです。

本好きになるかどうかで人生を何倍も豊かに過ごせるようになります。鴛野小学校の図書館は図書館支援員の先生の努力もあり、本の品ぞろえは抜群です。また、鴛野小学校では「お話ウルトラマン」の方々の読み聞かせも活発に行われています。読書には最高の環境です。どうか小学生の内に“本好き・読書好き”になってほしいと願っています。

「お話ウルトラマン」さんによるビデオ収録実施

12日、「お話ウルトラマン」の方々による吉四六劇『あと何里』のビデオ収録が行われました。毎年、体育館ステージ上で上演され、子どもたちにも大好評とのこと。今年は新型コロナウイルス感染防止の関係でビデオでの披露となります。後日、上映します。お楽しみに。

* 図書館にも吉四六さんの本が何冊かあります。ぜひ読んでみてください。



『これはナルホド きっちむ話』
木暮正夫 著

あまりにも当たり前のことかもしれないが、考えることは、言葉で行なう行為だ。一人で考え事をしているときも、言葉で基本的には考えている。言葉の種類が少なければ、自然と思考は粗雑にならざるを得ない。考えるということを支えているのは、言葉の豊富さである。

話し言葉の種類は限られている。日常を過ごすだけならそれほど難しい言葉は必要ない。しかし、その日常の話し言葉だけで思考しようとすれば、どうしても思考自体が単純になってしまう。表現する言葉が単純であれば、思考の内容も単純になっていってしまう。逆にいろいろな言葉を知っていることによって、感情や思考自体が複雑で緻密なものになっていく。これが書き言葉の効用である。書き言葉には、話し言葉にないヴァリエーションがある。

言葉をたくさん知るためには、読書は最良の方法である。なぜ読書をした方がよいのかという問いに対して、「言葉を多く知ることができるからだ」という答えは、シンプルなようだがまっとうな答えだ。

(引用『読書力』 齋藤孝：著)

秋の読書月間に寄せて 読書の意義とは

「読書は大切だ」ということに反対する人はまずいないでしょう。読書の効果としては「読解力（読み取る力）がつくから、知識が豊富になるから、情操が豊かになるから、知的好奇心を持てるから、語彙（言葉の数）が豊富になるから…」などを挙げる人が多いと思います。

右に紹介するのは齋藤孝さんの『読書力』からの引用です。この本のこの部分を読んだときに読書をする理由のひとつが「**語彙を増やし思考力を高めること**」にあるとわかりました。

鴛野校区神社訪問 第三弾「金刀比羅神社」

鴛野小学校区には3つの神社があります。「鴛野小通信」No.6(6月1日発行)で敷戸神社、No.7(6月5日発行)で子子(し)神社を訪ねたことを書きました。残るひとつの神社は金刀比羅神社です。今日は春に金刀比羅神社を訪ねたときのことを書きたいと思います。

5月下旬のその日は、とてもよい天気の日でした。当時、学校は分散登校中。そこで、校区的見まわりの一環として金刀比羅神社に行ってみることにしました。ゼンリンの分厚い住宅地図を車の助手席に乗せ、出発です。

敷戸新町から西へ向かい敷戸陸橋の手前を右折。敷戸川に沿って走り、途中から狭い道に入り込みます。初めての道が続き、この辺りから道に迷い始めました。(あれ?ここはどこ?)

車がやっと通れるくらいの狭い道を慎重に進みます。見渡しても、どこにも神社らしき建物はありません。道がなくなってしまう、しょうがなくUターン。同じ道を戻る途中、散歩中の男性とすれ違いました。道路脇によけてくれた男性に尋ねました。

「申し訳ありません。この辺りに神社がありませんか?」

「あっ、それならあそこですよ。」
男性は、すぐ近くの森を指さしました。なるほど、その辺りだけこんもりとした森になっていて、いかにも神社がありそうです。

親切に教えてくれたその男性にお礼を言い、とりあえず車を空き地に置くことにしました。そこからは歩いて、先ほど教えてもらった神社を目指します。

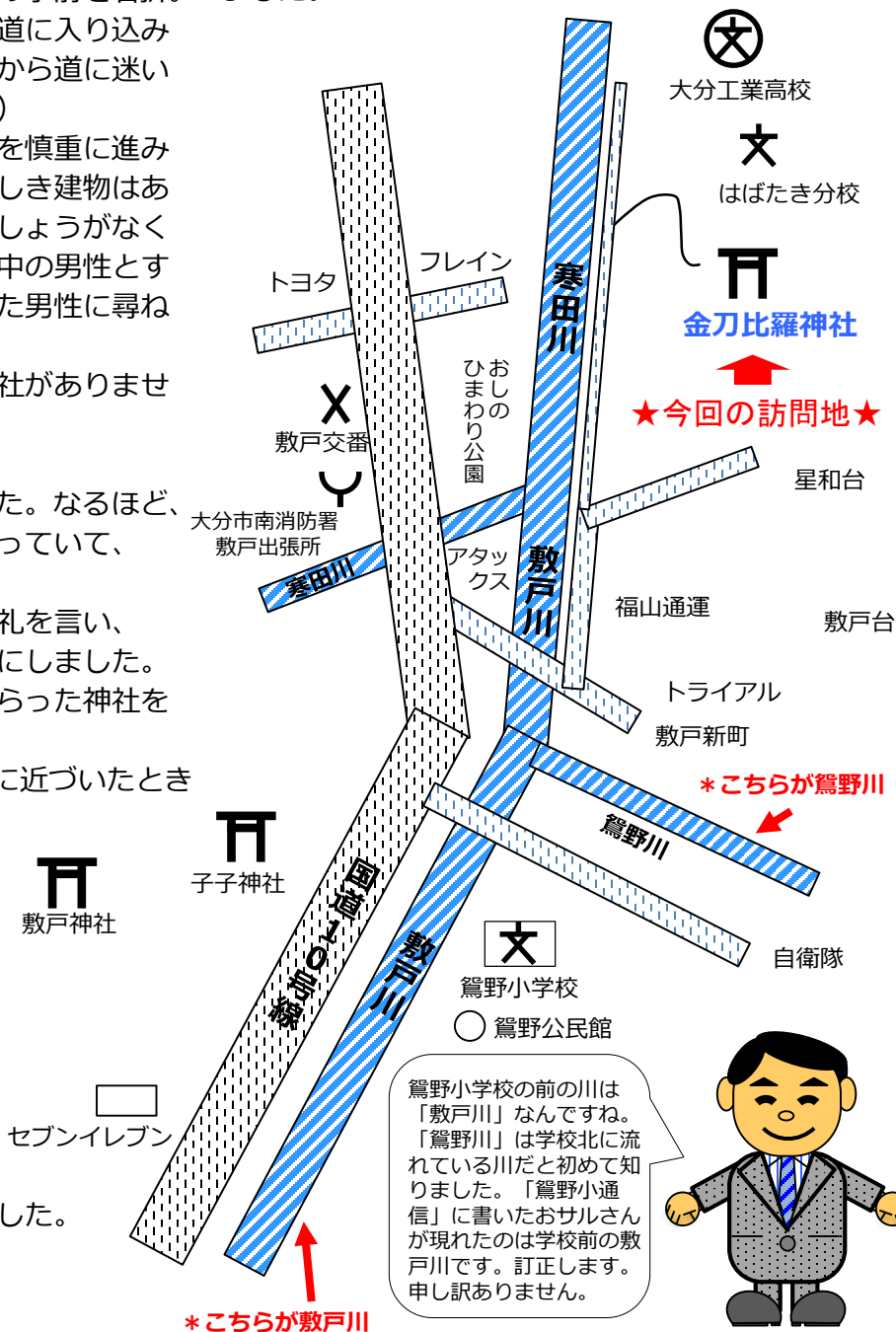
100mほど歩き、お目当ての神社に近づいたとき「ご案内しましょうか?」と、どこからともなく声がしました。辺りを見回しても誰もいません。見上げると道のかなり上の方に先ほどの男性が立っています。

「私も行ったことがありますので、ご案内しますよ。私についてきてください。」

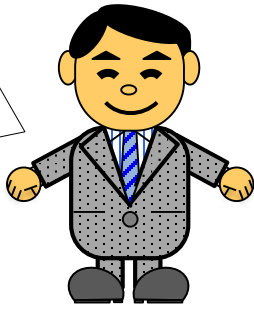
と言います。その言葉に甘えて神社まで案内してもらおうことにしました。

二人で道幅1mくらいの歩道をしばらく歩き神社(金刀比羅神社)に到着。小さな神社でしたが、境内はきれいにそうじをされていました。地域の人に大切にされているのだなあと感じました。

帰り道は、その男性と話しながら大分工業や、はばたき分校のあたりまで案内してもらいました。「今日はありがとうございました。鴛野小学校の近くにお越しのときはぜひ校長室にお寄りください。」と言って親切な男性と別れました。神社を訪問するだけでなく、地域の方との出会いもあり、何となく心がほっこりした一日となりました。



鴛野小学校の前の川は「敷戸川」なんです。 「鴛野川」は学校北に流れている川だと初めて知りました。「鴛野小通信」に書いたおサルさんが現れたのは学校前の敷戸川です。訂正します。申し訳ありません。



*こちらが敷戸川